

# 山北町立山北中学校

主体的・対話的で深い学びづくり～社会で生かせる思考力・判断力・表現力を育むために～

## 1 実践の目的

新型コロナウイルスの流行や長引く戦争による不安定な経済状況の影響から、物価は上昇し、円安が加速することによって、私たちの生活は逼迫した。また、「Society5.0」や「DX」の必要性が謳われ、近年は「ChatGPT4」など次々と有能なAIが開発された。このように、時々刻々と変化を続ける現代社会の中で生きる力を身につけさせることが、私たちの使命である。

本校では、平成28年度より「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」として、神奈川県教育委員会から研究委託を受け、平成29年度からは「主体的・対話的で深い学びづくり」を研究主題として掲げ、実践研究を進めてきた。令和元年度からは、副題に「社会で生かせる」というキーワードを加え、急激な変化を続ける現代社会で生かせる思考力・判断力・表現力を育むことを研究の目的としてきた。

令和3年度以降、「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」を、未知の課題を解決するための力と定義し、山北町が掲げる「山北スタンダードカリキュラム」を手立てに、各教科でその育成を図ることとした。

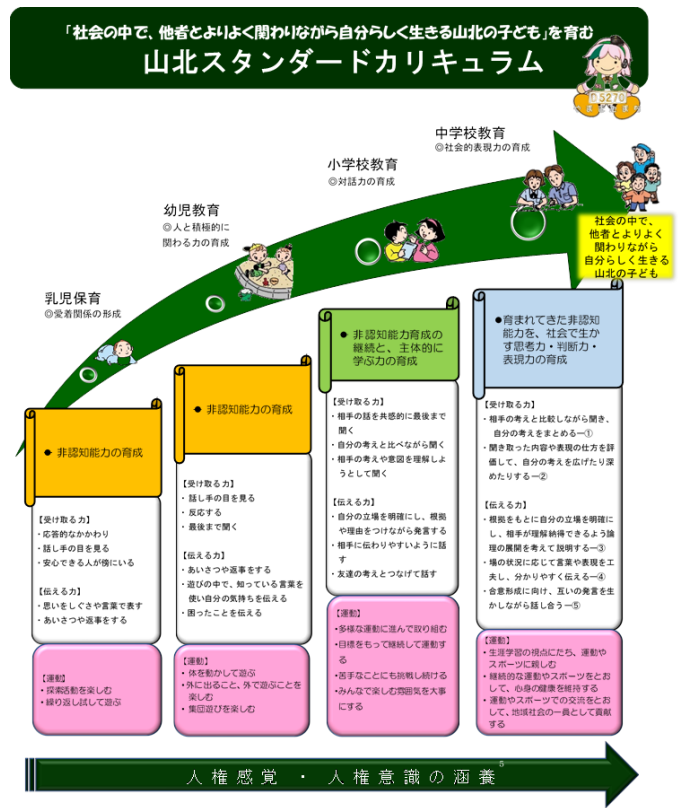
これまでの研究により、生徒の「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」の高まりを見取るためには、どのような力を身につけさせるべきなのか教職員同士が共通理解し目標設定するとともに、単元と各時の評価規準を明確にすることが必要であると明らかになった。

そのため、今年度の研究では各教科で単元を貫く学習課題を設定し、評価規準を明確にしたうえで、授業実践を進めることとした。そして、単元末の学習成果を見取ること、生徒の「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」を高めることに、本研究が効果的であったかを考察することとした。

## 2 実践の内容

### (1) 実践の手立て

山北町においては、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の基本方針を定めている。



画像③ 自然に水がしみこむように徐々に養育すること

<https://www.town.yamakita.kanagawa.jp/cmsfiles/contents/0000004/4575/0to15kihonhoushin.pdf>

山北町のめざす子ども像を実現させるために設定した「山北スタンダードカリキュラム」がある。これは、乳幼児保育・教育から発達段階ごとに育成すべき「受け取る力」と「伝える力」を系統的に明らかにしている。本校では学習活動の基盤として山北スタンダードカリキュラムを取り入れて研究・実践を行った。

## (2) 授業の実際（保健体育科）

### 対象学年

第3学年（65名）

### 単元を貫く学習課題

空間を作りだす動きを理解し、ゲームの状況に合わせて活用できるようになる！

### 評価規準

思考 判断 表現	選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。
B（概ね満足）	運動を選択した理由や、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えたり、学習カードに記したりしている。
A（十分満足）	B規準を満たした上で、具体的な場面を挙げての説明や、作った空間を利用するという視点で考え、仲間に伝えたり、学習カードに記したりしている。

### 山北スタンダードカリキュラム

ハンドボールでのゲーム後、チームの戦術や個人の動きなどを撮影した動画で振り返り、改善点を伝え合う。その際、根拠をもって説明したり、仲間に納得してもらえよう伝えたりすることを意識させた。

## 3 実践の成果

### (1) 生徒アンケートによる成果

7月と10月に実施した生徒アンケート

では、生徒自身がどの発達段階までの「受け取る力」と「伝える力」を発揮することができているかを調査した。

その結果、学年が上がるにつれて、数値が高くなっていることが明らかになった。「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」などの資質・能力は、長い期間を経て、高まっていくものである可能性が示唆された。

### (2) 抽出生徒の学習成果

保健体育科の実践より、3学年のKさんは、単元の学習が始まった当初は、振り返りでの話し合いで発言することができなかったが、授業が進むにつれて、チームの戦術についてやスペースをつくるための動き方について、発言する回数が増えた。

また、それに伴ってゲーム時の動きも自分自身の特性を考え、ポストプレイによって味方のスペースをつくる動きを行えるようになった。

単元の目標や評価規準が明確であるとともに、チームごとに話し合う機会を毎時間設定し、「受け取る力」と「伝える力」を意識することができたからこそ、このような成果があらわれたのだと考える。

## 4 今後の展開

前述したとおり、「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」などの資質・能力は、長い期間を経て育成されるものである。そのため、単元だけでなく、年間をとおした学びの成果を見取ることが重要である。

また、「山北スタンダードカリキュラム」を授業場面だけでなく、日常生活でも意識して活用することができれば、さらなる資質・能力の向上が期待できる。小学校段階での活用方法などと連携をとりつつ、より発展させた取り組みを検討したい。